

奈良県立医科大学をご支援いただいている皆様へ

# 「未来への飛躍」基金

## 医療の 未来へ まっすぐに。



### Topics 名誉称号授与者数 (2023年3月31日現在)

30万円以上(法人は50万円以上)ご寄附いただいた方に  
名誉称号を授与させていただきました。

称号区分	金額	累計件数	銘板プレートの色
栄誉会員	個人・法人:1千万円以上	個人: 14 法人: 4	ゴールド
功績会員	個人・法人:100万円以上	個人: 228 法人: 14	シルバー
貢献会員	個人: 30万円以上 法人: 50万円以上	個人: 517 法人: 6	ブロンズ

●お問い合わせ先



〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地

【総務広報課】

TEL 0744-22-3051 (内線2803・2805)

直通番号 0744-23-9973

FAX 0744-29-8987

E-mail hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

<https://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>



## ごあいさつ

平素より奈良県立医科大学の教育・研究・診療活動へご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学は、ここ橿原の地にあって、常に全国、世界の水準を視野に入れた最先端・最高水準の大学を目指し教職員・学生が日夜を問わず励んでおります。こうした日々の努力によって、質・量ともに秀でた、全国の医学部の中でも最上位レベルの医科大学を実現できるものと確信しています。

このような未来に向けた新たな飛躍を確かなものにするため、教育・研究・診療活動や地域貢献活動の推進、職場・修学環境の充実、キャンパス移転に係る施設整備等に対応するべく、「未来への飛躍」基金を創設いたしました。

少子高齢社会・地球温暖化・新型コロナウイルスに伴う感染症対策など数多くの問題に対して本学に期待される役割も大きく変化しております。この状況は、70有余年の歴史を誇る本学が未来に向けて新たな飛躍を目指す好機であると考えています。国による大学の経営改革が着実に進められている中で、本学は存在感のある大学として生き残るべく、臨床研究中核病院の承認に向けた取組をはじめ、さまざまな自己変革に引き続き尽力してまいります。

公立大学法人  
奈良県立医科大学  
理事長・学長

細井裕司

本学が更なる飛躍をするためには、長期的に安定した財政基盤を構築することが必要であり、中でも基金の充実が不可欠なものとなっています。

皆様におかれましては、従前からひとかたならぬご支援をいただいておりますが、基金設置の趣旨にご理解とご賛同をいただき、更なる一層のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 基金の概要

公立大学法人奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金

## 目的

基金は奈良県立医科大学(以下「本学」という。)における教育、研究、診療の一層の充実を図るとともに、社会貢献及び国際交流を推進することにより、本学の「未来への飛躍」を着実に進めることを目的とします。

## 使途

### 教育、研究及び診療活動への支援 P15~18

- 大学院博士課程入学者への奨学金
- 学生の海外、国内実習への助成
- 国際交流活動への支援
- クラブ活動への助成 等



### 大学及び附属病院の施設整備 P03

- 大学・附属病院の環境整備
- 新キャンパスでの交流会館の建設 等

今後、上記の他にもハード面の環境を充実するための事業に活用していく予定です。



### 大学と社会とのつながりへの支援

- 健康長寿イベントへの助成 等 P17

上記の他にも大学と社会との繋がりを強化するための事業に活用していく予定です。



## ご寄附の方法

奈良県へのふるさと納税制度を活用されたご寄附 P07へ

本学への直接のご寄附 P11へ

# 未来に向けた活動予定

## 新キャンパスの整備に向けて

本学は、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るといふ新しい奈良県立医科大学を作り上げる絶好の機会を迎え、数十年先の大学と附属病院のあるべき姿を検討するため、2014年1月に「医大の将来像策定会議」を立ち上げました。その後十分な検討を重ねたのち、2017年4月に「奈良県立医科大学の将来像」及び「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を策定、公表しました。2019年3月には基本計画を取りまとめ、2021年度より造成工事を実施し、2022年度より建築工事に着手しています。

## 医大新キャンパスの移転整備

### 【整備コンセプト】

- 奈良への愛着を醸成し、奈良県立医科大学ならではの医学教育を実践する場にふさわしい姿を具現化
- 現在老朽化が著しい教養教育部門及び看護学科の施設を先行して整備  
(2024年度に先行整備分竣工予定)
- 歴史的な景観や、畝傍山への眺望など周辺の自然環境に配慮しながら、日本最初の都城である藤原京をモチーフとした、古都奈良に相応しい景観を形成するようなデザイン



## 応援メッセージ



医学科同窓会 会長  
國分 清和

平素より本学にご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。  
本学医学科同窓会は、1956年に当時の吉松信宝学長を初代の会長として設立して以来、大学の発展に伴い拡大を続け、現在正会員も5,000有余名となり、全国で各方面の医療活動に活躍しておられます。  
「未来への飛躍」基金の目的や活用事業を考えたとき、基金への後援は同窓会の本来の目的に合致するものであり、同窓会員にとっても、母校の発展にも大いに寄与できるものと確信する次第です。この基金に対し、本会としましても可能な限りの支援ができますことを強く願っているところでございます。  
現に、多くの同窓会員の皆さまが母校のため、後輩の学生たちのために毎年寄附をいただいている方も多く聞いており、感謝しております。もしまだ寄附をしていない会員様がいらっしゃいましたら、是非とも基金への寄附をお願いいたします。  
会員の皆様はもとより、地域の方々を始め広く皆様方に「未来への飛躍」基金へのご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

## 臨床研究中核病院承認取得への取り組み

臨床研究中核病院とは、日本発の革新的医薬品・医療機器の開発などに必要となる質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院として医療法上位置づけられ、厚生労働大臣が要件を満たした病院について承認するものです。全国で、14病院(R4年4月現在)が承認を受けております。



## 奈良県立医科大学が臨床研究中核病院の承認を受けることによる、奈良県のメリット

- 医師の県外流出防止・人材確保
- 優秀な医療者の確保・育成
- 高水準の医療技術の開発・集積
- 県民に最高の医療を提供
- 産学連携・産業誘致

これらにより、奈良医大が質の高い臨床研究を推進し、次世代のより良質な医療を県民に提供することが可能となります。



## 臨床研究中核病院の承認申請に向けた体制整備と研究推進

奈良医大では、申請に向けて、承認要件とされる体制整備を進めております。また、必要とされる医師主導治験と特定臨床研究の新規実施件数の確保を目指して推進を図っております。「未来への飛躍」基金からの研究費助成金の成果もあり、2021年度の特定臨床研究の新規件数は、前年度の3件から大幅増の9件(R4年4月現在)となりました。



看護学科同窓会 会長  
植村 信子

日頃から本学にご理解とご支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。  
創立70有余年の奈良県立医科大学の歴史の中で、本学看護学科も奈良県協同病院看護婦養成所から時を経て医学部看護学科へと発展し、その過程で、本会も1986年に附属看護専門学校統一同窓会として発足し、2008年に現在の組織に改称いたしました。  
現役会員の皆さまは、本学附属病院を中心に奈良県内のみならず全国各地で看護活動に活躍されています。  
本会が目指す事業の一つは大学の後援であり、教育、研究、診療への支援であります。基金の意義、目的を考えたとき、基金への支援は、本会の目標と一致しており、本会としましても可能な限りの協力をしていくべきと考えております。  
会員の皆さまを始め、広く皆さま方のご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

# 顕彰制度について

ご寄附いただいた方々に対して、感謝の気持ちを込めて顕彰制度を設けております。

## ご芳名の掲載

### 寄附額に関わらず寄附者全員

寄附者のご芳名を基金ホームページ、学報に掲載させていただきます。(掲載同意者のみ)

## 感謝状の贈呈

### 10万円以上をご寄附いただいた方

寄附額(複数回のご寄附をいただいた方はその合計額)が10万円以上の方に対して、理事長からの感謝状を贈呈させていただきます。

## 名誉称号の授与

### 30万円以上をご寄附いただいた方

寄附額(複数回のご寄附をいただいた方はその合計額)に応じて、下記名誉称号を授与させていただきます。

#### 称号の種類別

- 奈良県立医科大学 貢献会員…… 個人:30万円以上  
法人:50万円以上
- 奈良県立医科大学 功績会員…… 個人、法人:100万円以上
- 奈良県立医科大学 栄誉会員…… 個人、法人:1千万円以上

## 寄附者銘板

### 30万円以上をご寄附いただいた方

附属病院及び新キャンパス双方に銘板を設置し、寄附額(複数回のご寄附をいただいた方はその合計額)が30万円以上の方のご芳名を刻んだ記念プレートにより顕彰させていただきます。(掲載同意者のみ)

#### プレートの色

- ブロンズプレート…… 個人:30万円以上/法人:50万円以上
- シルバープレート…… 個人、法人:100万円以上
- ゴールドプレート…… 個人、法人:1千万円以上

## 紺綬褒章について

この度、本学が紺綬褒章に係る公益団体として内閣府賞勲局より認定されました。基金に500万円以上のご寄附をいただいた方(個人)及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は紺綬褒章授与の対象となります。なお、授与申請については本学の取扱基準に基づいて申請を行いますので、まずは総務広報課までお問い合わせください。



## 基金の管理運営方法

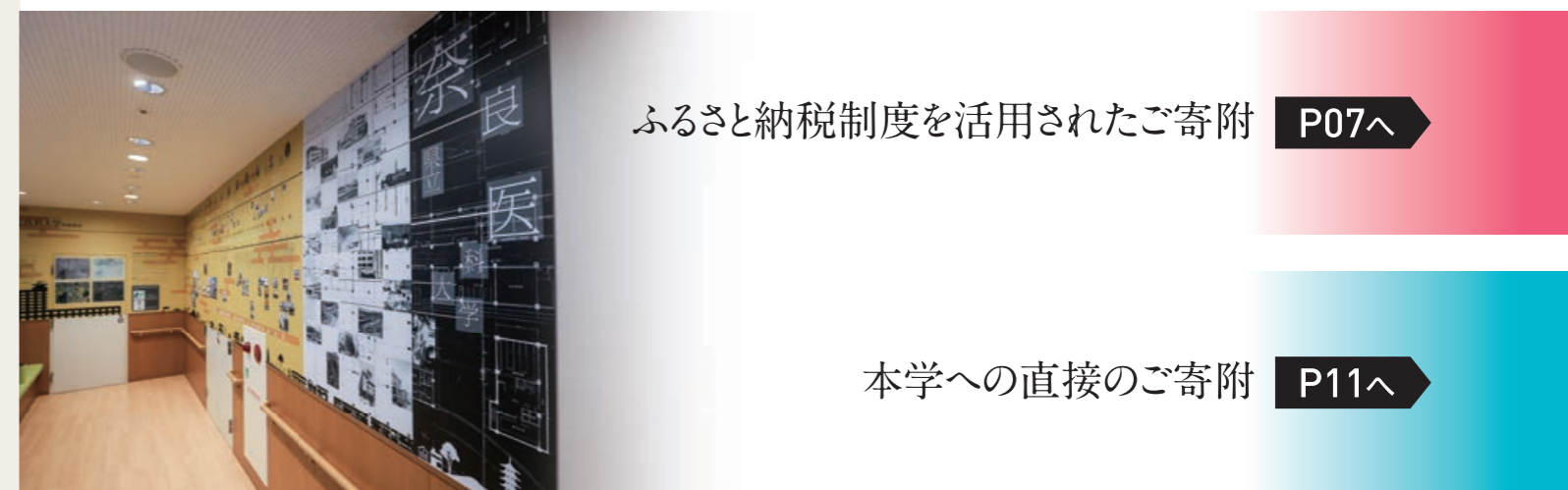
- 基金が皆様方からの寄附金という大変貴重なご厚志によって成り立っていることから、適正な管理・運営を図るべく、学内関係者だけでなく奈良県や同窓会関係者にも参画いただいた運営委員会を組織し、同委員会が事業計画等を審議し、その結果に基づき、基金の管理・運用を行っています。
- 基金への寄附の受入や基金での支出等に関しては、本法人の会計関係規程に基づき処理しています。又、ふるさと納税制度を活用した県への寄附についても、県の会計規則等に基づき処理されています。
- 基金は法人に設置していますので、地方独立行政法人法の規定に基づき、監事及び会計監査人による監査を、毎年度、法人会計全体の中で受けています。又、自己規律を担保するため本法人に設置している監査室による監査の対象にもなっていますが、いずれの監査においても、現在に至るまで、基金の管理・運用に関し不適切等の指摘を受けたことはなく、関係職員の高い意識の下、適正に管理・運用させていただいています。

## 個人情報保護

本基金のためにご提供いただいた個人情報は、寄附金の収受及び管理に関する業務にのみ使用し、適正な管理を行います。

# ご寄附の方法

ご寄附の方法には「ふるさと納税制度を活用されたご寄附」と「本学への直接のご寄附」の2通りの方法があります。



実質負担額2,000円で寄附が可能!

## 税制上の優遇措置を受けることができます。

### 個人の場合

その年の寄附金が2,000円を超える場合、その超えた金額が当該年の所得から控除されます。		
所得税(所得控除)		(寄附金 <sup>*1</sup> -2,000円)×「所得税の税率」×「復興特別所得税率2.1%上乘せ」
その年の寄附金が2,000円を超える場合、その超えた金額の10%が、寄附した年の翌年の個人住民税から減額されます。		
住民税(税額控除)	ふるさと納税 活用の場合	基本控除 (寄附金 <sup>*2</sup> -2,000円)×10% 特例控除 <sup>*3</sup> (寄附金-2,000円)×(90%*-「所得税の税率」×「復興特別所得税率2.1%上乘せ」)
	本学へ直接ご寄附の場合	(寄附金 <sup>*2</sup> -2,000円)×10% <sup>*4</sup>

※1 総所得金額等の40%が限度 ※2 総所得金額等の30%が限度 ※3 個人住民税所得割額の20%が限度 ★100%-10%(基本控除)

※4 橿原市内にお住まいの方の場合(橿原市以外の奈良県にお住まいの方は4%)

※ふるさと納税ワンストップ特例制度を活用される場合は、所得税控除分相当額を含めて住民税から減額され、確定申告を行った場合と同額が減額されます。ワンストップ特例制度についてはP.7をご覧ください。

本学へ直接ご寄附いただく場合は、下記の税制上の優遇を受ける手続きを行ってください。

①寄附金の入金が確認され次第、「寄附金領収書」を本学からお送りいたします。

②税制上の優遇を受けるには、確定申告が必要です。確定申告の際に「寄附金領収書」を添えて住所地の税務署に申告してください。

③所得税の確定申告を行わない方で個人市町村民税の寄附金控除のみを受ける場合は、住所地の市区町村に申告を行っていただく必要があります。

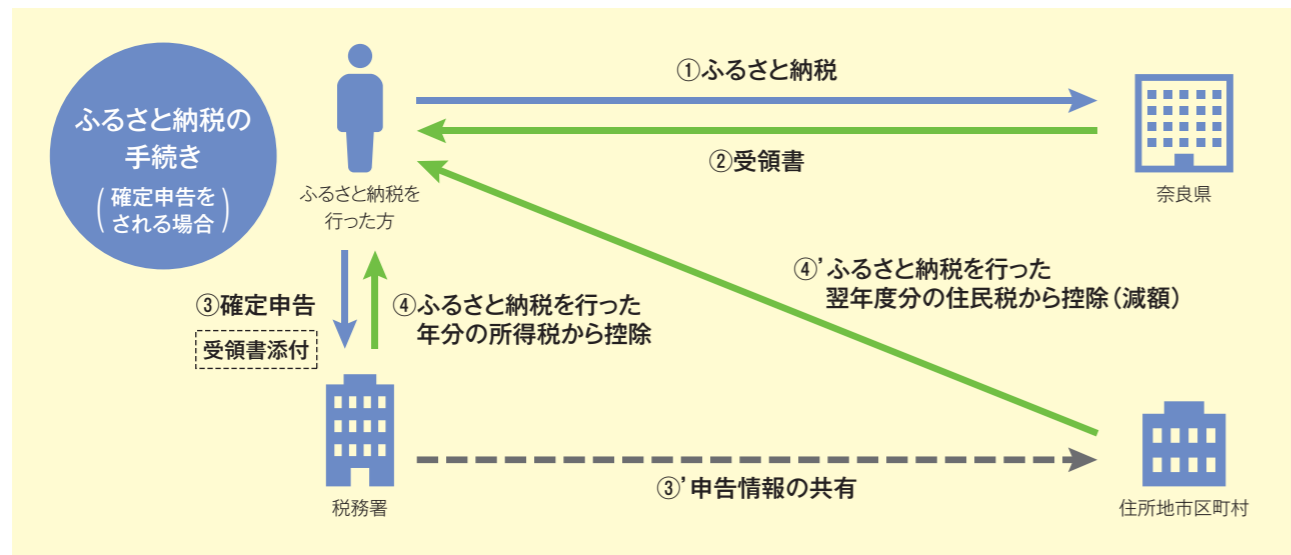
### 法人の場合 (法人税法第37条第3項第2号)

寄附金全額を損金算入することができます。

# ふるさと納税制度を活用されたご寄附

## ふるさと納税制度の趣旨

現在の住所地の都道府県と市区町村に納税している個人住民税の一部を、自分が「ふるさと」と思う地方公共団体に対し、寄附という形で納付することのできる制度です。学生時代に奈良医大で学び人生の礎を築いたことなどにより、奈良を「心のふるさと」として親しんでいただいている方であれば、ふるさと納税制度を活用して奈良県へ寄附申込・納付していただくことが可能です。この場合、県はご寄附の趣旨を踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金に交付します。

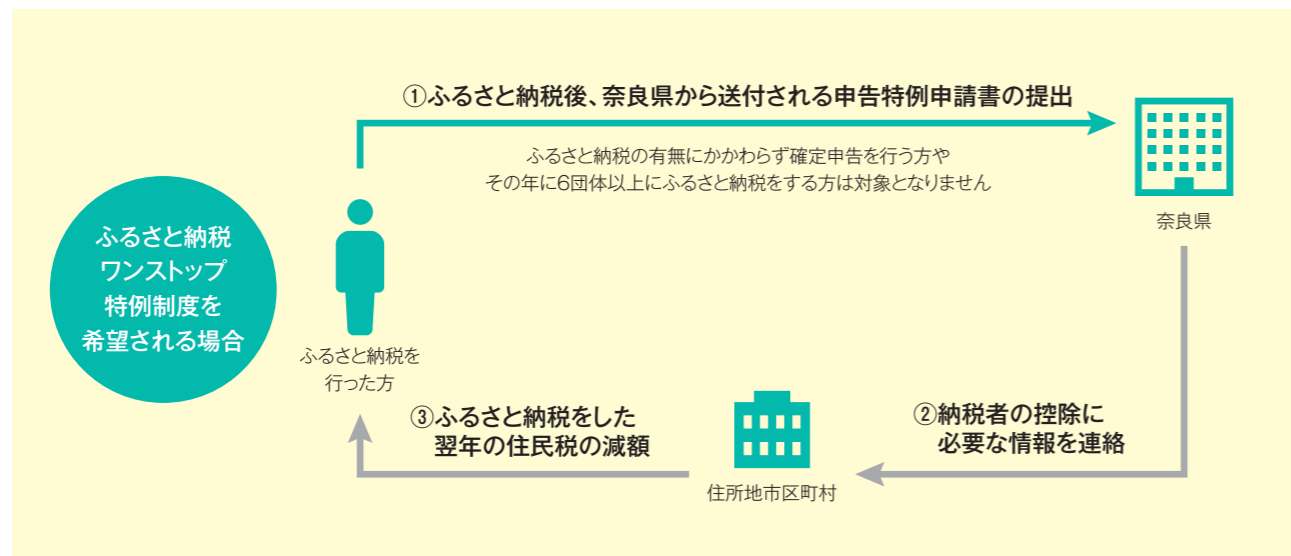


控除される額には上限がありますので、P10の目安もしくはお近くの市区町村にお尋ねください。

## 『ふるさと納税ワンストップ特例制度』について

税の控除を受けるためには確定申告を行っていただくことが必要ですが、「ふるさと納税ワンストップ特例制度」を活用すると確定申告を行わなくても税の控除を受けることができます。

「ふるさと納税ワンストップ特例制度」とは、寄附をされる方が寄附先の地方公共団体(奈良県)へ申請を行い、寄附先の地方公共団体(奈良県)から、その方の住所地の市区町村に通知を行うことにより、所得税の控除相当額を含め個人住民税からまとめて控除を受けることができる制度です。

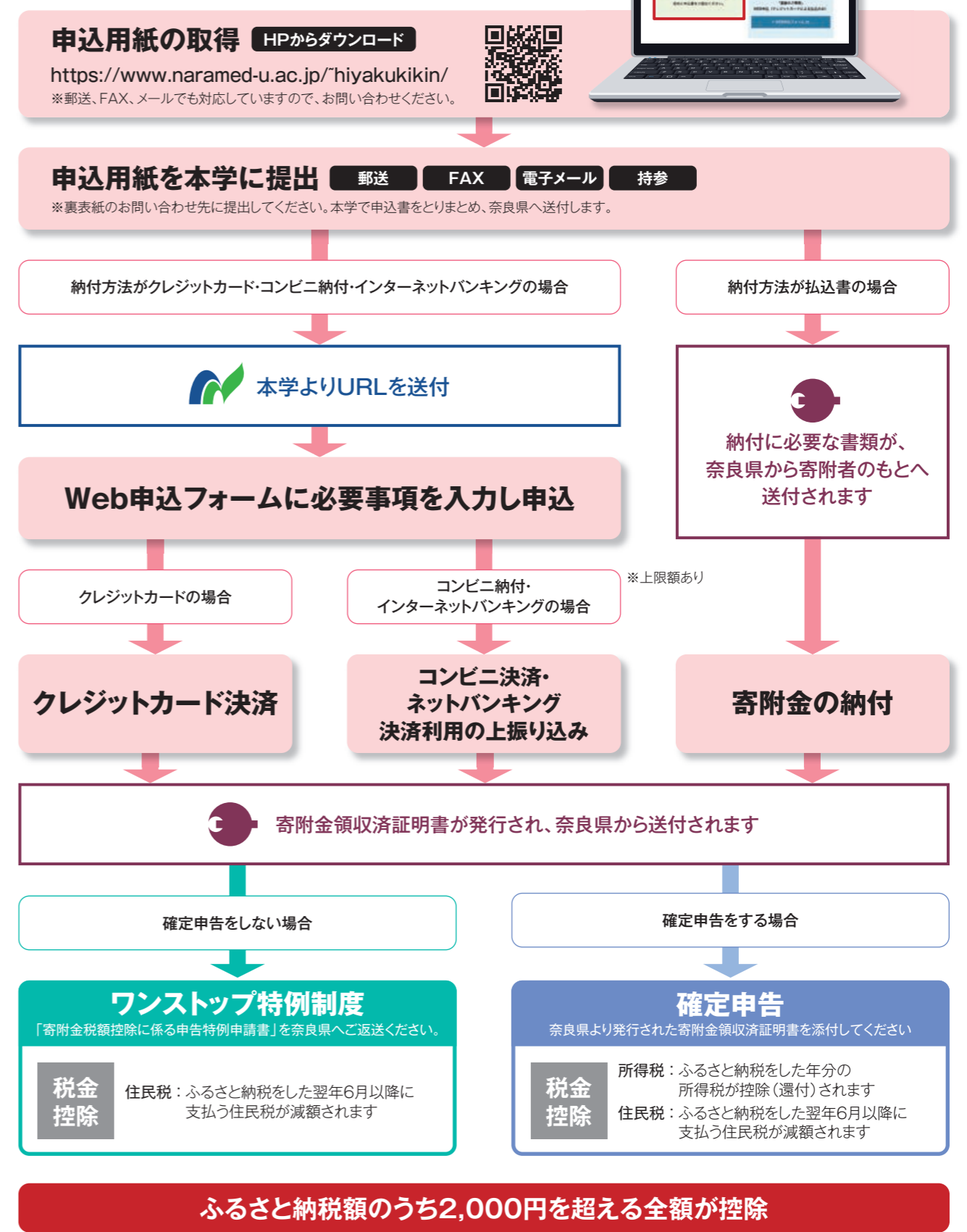


申請書提出後、申請書の内容(電話番号を除く。)に変更があった場合は、寄附した年の翌年1月10日までに変更届出書を奈良県へ提出してください。

「ふるさと納税制度」をご活用いただくことで寄附額から最低2,000円を除いた額が翌年の税金から控除され、更に奈良医大への支援につながります。

ホームページにアクセス後「寄附申込はこちら」をクリック、申込書をダウンロードできます

## ふるさと納税制度によるご寄附のながれ



ふるさと納税額のうち2,000円を超える全額が控除

# ふるさと納税制度を活用されたご寄附



## ふるさと納税寄附による軽減例

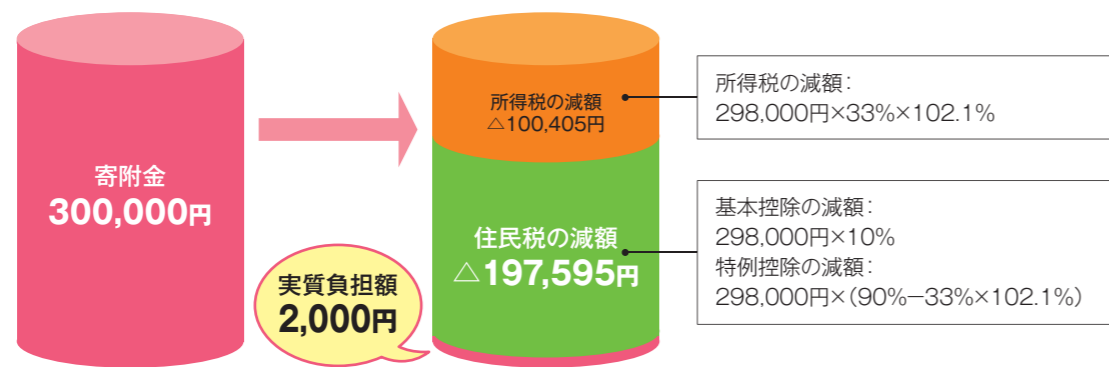
※税制改正にて変更になる場合もあります。

モデル  
ケース

夫婦共働きで子ども1人(大学生)の3人家族が、  
30万円寄附をしたケース

給与収入**1,500万円**の場合

課税所得1,000万円(所得税率33%)、  
所得税・住民税額200万円の場合



寄附をした場合の軽減額合計 **100,405円+197,595円=298,000円軽減**  
(所得税) (住民税)

実質負担額 **2,000円**で**300,000円**を寄附

### ●確定申告をされる場合

所得税は確定申告後1~2か月で還付され、住民税は翌年(6月以降)に控除されます。

### ●ワンストップ特例制度を活用される場合

所得税控除分相当額を含めて住民税から控除され、確定申告を行った場合と同額が減額されます。



## 全額控除されるふるさと納税額(年間上限)の目安(2,000円を除く)

自己負担額の2,000円を除いた全額が所得税(復興特別所得税を含む)及び個人住民税から控除される、ふるさと納税額の目安一覧(平成27年度以降)です。ふるさと納税を行う方の給与収入と家族構成別で表にしていますので、参考にしてください。全額控除されるふるさと納税額の年間上限を超えた金額については、全額控除の対象となりませんのでご注意ください。

※掲載している表は、住宅ローン控除や医療費控除等、他の控除を受けていない給与所得者のケースとなります。年金収入のみの方や事業者の方、住宅ローン控除や医療費控除等、他の控除を受けている給与所得者の方の控除額上限は表とは異なりますのでご注意ください。

※社会保険料控除額について、給与収入の15%と仮定しています。

※掲載している表はあくまで目安です。具体的な計算はお住い(ふるさと納税翌年1月1日時点)の市区町村にお問い合わせください。

(単位:円)

ふるさと納税を行う方本人の給与収入	独身または共働き <sup>※1</sup>	共働き+子1人(高校生 <sup>※2</sup> )	共働き+子1人(大学生 <sup>※2</sup> )	夫婦 <sup>※3</sup> +子1人(高校生)	共働き+子2人(大学生と高校生)	夫婦+子2人(大学生と高校生)
500万円	61,000	49,000	44,000	40,000	36,000	28,000
550万円	69,000	60,000	57,000	48,000	44,000	35,000
600万円	77,000	69,000	66,000	60,000	57,000	43,000
650万円	97,000	77,000	74,000	68,000	65,000	53,000
700万円	108,000	86,000	83,000	78,000	75,000	66,000
750万円	118,000	109,000	106,000	87,000	84,000	76,000
800万円	129,000	120,000	116,000	110,000	107,000	85,000
850万円	140,000	131,000	127,000	121,000	118,000	108,000
900万円	152,000	141,000	138,000	132,000	128,000	119,000
950万円	166,000	154,000	150,000	144,000	141,000	131,000
1,000万円	180,000	166,000	163,000	157,000	153,000	144,000
1,100万円	218,000	194,000	191,000	185,000	181,000	172,000
1,200万円	247,000	232,000	229,000	229,000	219,000	206,000
1,300万円	326,000	261,000	258,000	261,000	248,000	248,000
1,400万円	360,000	343,000	339,000	343,000	277,000	277,000
1,500万円	395,000	377,000	373,000	377,000	361,000	361,000
1,600万円	429,000	412,000	408,000	412,000	396,000	396,000
1,700万円	463,000	446,000	442,000	446,000	430,000	430,000
1,800万円	498,000	481,000	477,000	481,000	465,000	465,000
1,900万円	533,000	516,000	512,000	516,000	500,000	500,000
2,000万円	569,000	552,000	548,000	552,000	536,000	536,000
2,100万円	604,000	587,000	583,000	587,000	571,000	571,000
2,200万円	640,000	623,000	619,000	623,000	607,000	607,000
2,300万円	773,000	754,000	749,000	754,000	642,000	642,000
2,400万円	814,000	795,000	790,000	795,000	776,000	776,000
2,500万円	855,000	835,000	830,000	835,000	817,000	817,000

※総務省ホームページより抜粋 「給与収入」とは1~12月までの総支給額から非課税収入(通勤手当、旅費等)を差し引いた金額。  
(源泉徴収票の支払金額欄に掲げる金額)

※中学生以下の子供は(控除額に影響がないため)、計算に入れる必要はありません。例えば、「夫婦2人(高校生と中学生)」は「夫婦1人(高校生)」と同額になります。

※1「共働き」は、ふるさと納税を行う方本人が配偶者(特別)控除の適用を受けていないケースを指します。(配偶者の給与収入が201万円超えの場合)

※2「高校生」は「16歳から18歳の扶養親族」を、「大学生」は「19歳から22歳の特定扶養親族」を指します。

※3「夫婦」は、ふるさと納税を行う方の配偶者に収入がないケースを指します。

## 控除額計算シミュレーション

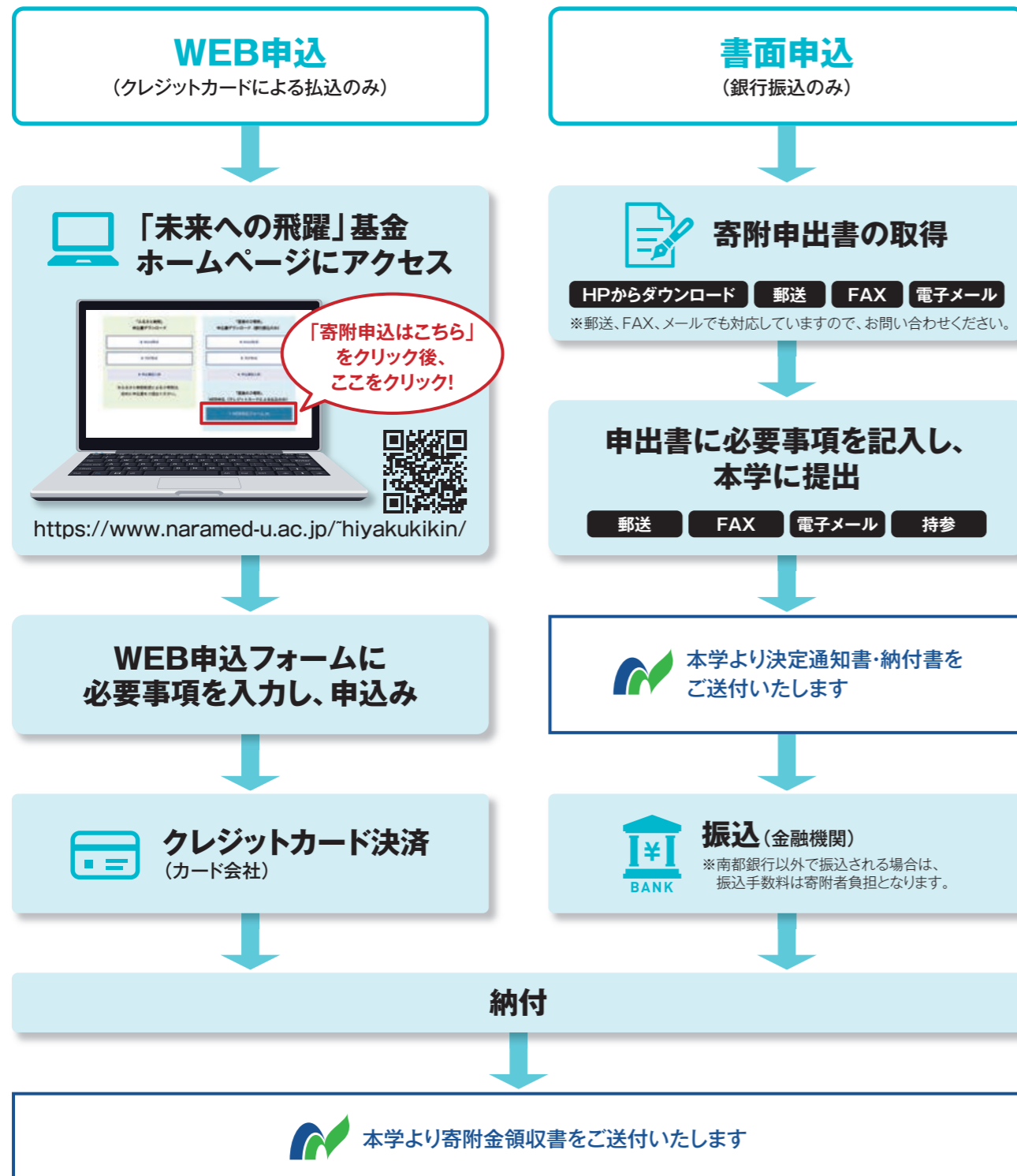
総務省が作成しているホームページ「総務省ふるさと納税ポータルサイト」

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_zeisei/czaisei/czaisei\\_seido/furusato/mechanism/deduction.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/mechanism/deduction.html))で、

給与額や家族構成をもとに、控除額のシミュレーションができます。

# 本学への直接のご寄附

## ご寄附のながれ



税制上の優遇を受けるには、確定申告が必要です。確定申告の際に「寄附金額収書」を添えて住所地の税務署に申告してください。所得税の確定申告を行わない方で個人市町村民税の寄附金控除のみを受ける場合は、住所地の市区町村に申告を行っていただく必要があります。

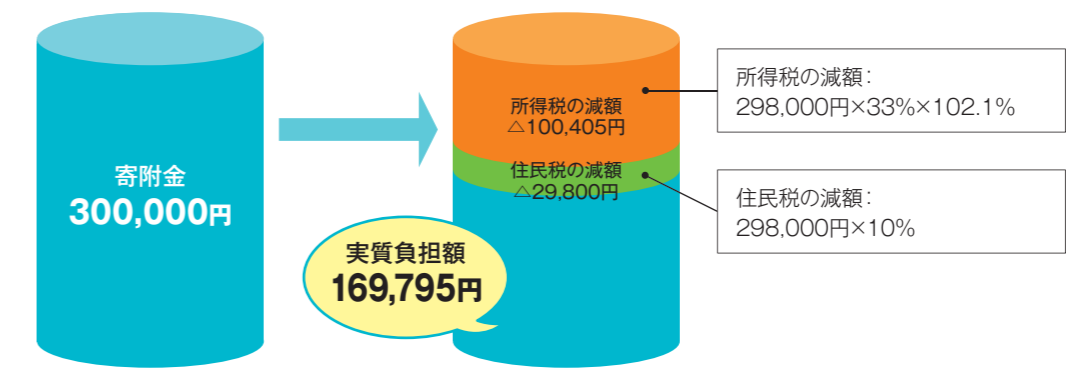


## 本学への直接寄附による軽減例

※税制改正にて変更になる場合もあります。

**モデルケース**  
 檀原市在住の夫婦共働き・子ども1人(大学生)の3人家族が、30万円寄附をしたケース  
 給与収入**1,500万円**の場合

課税所得1,000万円(所得税率33%)、  
 所得税・住民税額200万円の場合



寄附をした場合の軽減額合計 **100,405円+29,800円=130,205円軽減**  
(所得税) (住民税)

実質負担額 **169,795円**で**300,000円**を寄附

●確定申告をされる場合  
 所得税は確定申告後1~2か月で還付され、住民税は翌年(6月以降)に控除されます。

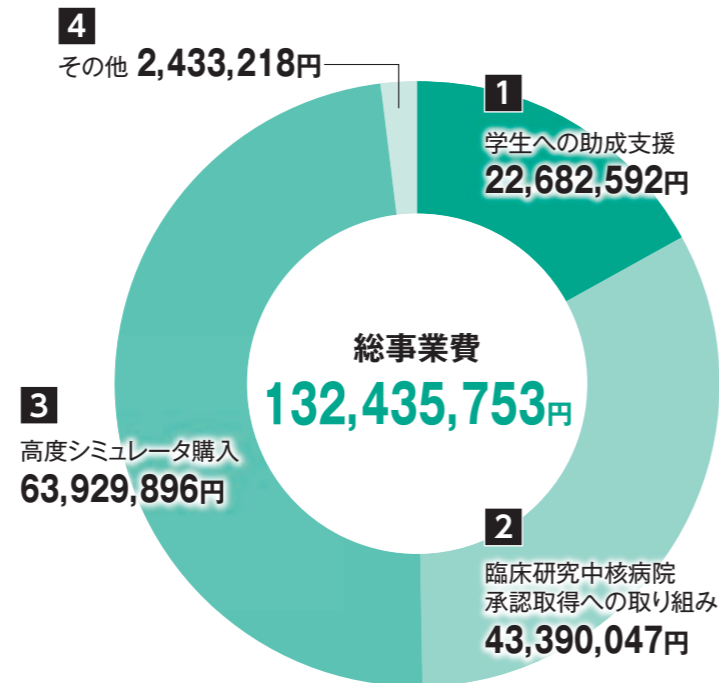
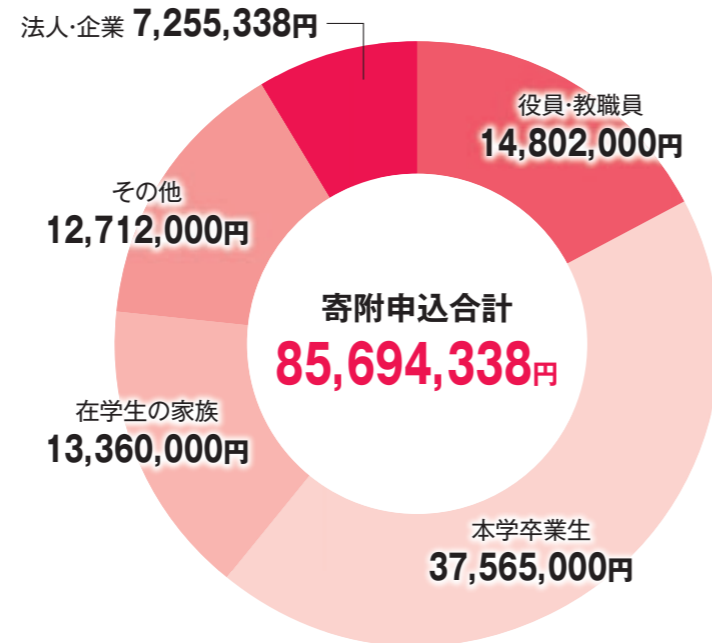


# 2021年度 実績のご報告

奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金は、2021年で創設から7年目を迎え、本学卒業生を始めとする多くの方々からのご支援・ご協力により、総額約10億円のご寄附をいただいております。皆様からいただいたご寄附は、基金の目的に沿って、大学・学生への支援等幅広く活用させていただいております。

## 2021年度寄附申込額と使途実績

[差額は基金に積み立てています。]



### 事業の概要

#### 1 学生への助成支援について

- ・国内外の研修への活動費
- ・学生の支援を行う講座への活動費
- ・医師・看護師・保健師の国家試験模試費用の支援
- ・クラブ活動への支援
- ・看護学生への実習着の授与 等

#### 3 高度シミュレータ購入

初期研修医を中心としたシミュレーション教育の充実・発展をさせるためのシミュレータを購入。

#### 2 臨床研究中核病院について

本学では申請に向けて、承認要件とされる体制整備を進めております。また、必要とされる医師主導治験と特定臨床研究の新規実施件数の確保を目指して推進を図っております。「未来への飛躍」基金からの研究費助成金の成果もあり、2021年度の特定臨床研究の新規件数は、前年度の3件から大幅増の9件(R4年4月現在)となりました。

#### 4 その他について

健康長寿イベント、事務費等。

## 2021年度 決算額

※詳細に関するお問い合わせ・ご要望は基金事務局までお願いします。

事業名	事業概要	支出額
大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金	希望者に対して入学金相当額及び授業料相当額を貸与 入学金相当額:282,000円×2人 授業料相当額:535,800円×10人+267,900円×1人	6,189,900円
リサーチ・クラークシップへの助成	医学科2年生対象の国内及び海外の研究室での実習に対して宿泊費(約70日分)を助成 国内助成:5,294,255円(19人/1泊上限5,000円)	5,294,255円
未来基礎医学への活動支援	学生の支援を行う講座へ運営費を助成 消耗品費、備品費、図書費、郵送料等	2,000,000円
国家試験対策への支援	医学科生及び看護学科生へ国家試験対策模試費用を支援 医師国家試験模試:1,975,700円 看護師・保健師国家試験模試:1,133,880円	3,109,580円
クラブ活動への助成	クラブ活動に必要な環境整備への助成 グラウンド整備費、消耗品費	2,599,212円
看護学科学学生への支援	看護学科学学生へ実習用白衣及びシューズを授与	1,391,601円
臨床英語での教育活動への助成	医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座の活動費を助成 講座職員人件費	2,098,044円
臨床研究中核病院承認取得への取組に対する助成	臨床研究中核病院承認取得に向けた体制整備(人件費) 臨床研究中核病院承認取得への研究費補助金	28,390,047円 15,000,000円
健康長寿イベント事業への助成	本学と地域社会との繋がりを強化するための取組である健康長寿イベントへの助成	915,051円
高度シミュレータ購入	初期研修医を中心としたシミュレーション教育の充実・発展をさせるためのシミュレータを購入	63,929,896円
募金推進事業	印刷費・郵送費・広報費等	1,518,167円
合 計		132,435,753円



## 活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介いたします。

# 教育・研究への支援

## 01 リサーチ・クラークシップ

医学科2年生を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得するための授業です。研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mindを培うことを目的とします。国内及び海外の研究室での11週間の実習で、宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2021年度活動報告より

### 旭川医科大学 先進医工学研究センターへ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 山名 智尋

この度は北海道への渡航費とリサーチ・クラークシップ期間の宿泊費のご支援をいただき、ありがとうございました。旭川という奈良から遠く離れた地で、2か月間という長期間の実習を無事行うことができましたのは、「未来への飛躍」基金からのご支援のおかげです。

リサーチ・クラークシップでは、先進医工学研究センターの先生方と一緒に研究活動を行うことで、現状の課題を解決するために新たな知を求めたり、まだ誰も知らないものを生み出したりすることの面白さとやりがいを感じることができました。私はずっと臨床の現場で働く医師になりたいと思い続けてきたのですが、リサーチ・クラークシップを通して研究に対する興味がとても強くなり、将来の選択肢の一つに研究者というものが加わりました。現時点では、奈良医大卒業後まず臨床医として医療に携わり、臨床の現場で見つけた課題を解決するために研究を行い、最終的に研究の成果を患者さんに還元できるような医師というものが目標とする将来像のひとつです。先進医工学研究センターでの経験がなければ、将来の選択肢に研究が加わることはなかったかと思います。旭川での実習の機会を与えてくださった「未来への飛躍」基金にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を糧にこの先も努力を続ける所存です。本当にありがとうございました。



前列右が山名さん

2021年度活動報告より

### 金沢大学 血管分子生物学教室へ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 朝井 啓斗

リサーチ・クラークシップを通して大きく2つのことを学びました。一つはもちろん研究のことです。高血糖ではAGEsの産生が亢進し様々な疾患に関係することは臨床で働く上で重要な知識だと思いました。また今回私が実験を行ったMG検出法についても、糖化反応の中間生成物の一つであるMGの検出法が確立され病態説明や早期診断、予防・治療薬の開発に繋がると考えられ、それに私が関われば嬉しいことだと思います。授業で教わることは確立された事実のように見えますが、その裏に未だ明らかになっていないことがたくさんあることを知りました。今後そのことを頭に入れながら注意深く授業を受けようと思います。もう一つは自分の性格に関することです。例えば帰宅時間について、実験の条件次第で終了時刻が異なり遅くまで残ることもあります。また発表の準備に関しても求める質によってどのくらい自分の時間を削るか変わってきます。研究、そして仕事に対する姿勢を改めて認識することができ、卒業後のキャリアパスを考える上でとても参考になる経験になりました。以上のことを学べたのは、約2か月金沢で研究に集中できる環境にあったからだと思います。関西にいれば家族や同級生のことだったり、部活のことだったり他の用事で忙しくなっていたと思います。金沢で研究に集中し、自分のことについてじっくり考え、そして多くのことを学べたのは「未来への飛躍」基金の支援があったからです。このような機会を与えてくださりとても感謝しております。医学・医療に貢献し支援して下さった皆様にお返しができるよう頑張りたいと思います。



左から3人目が朝井さん

2018年度活動報告より

### Sidra Medicineへ研究実習留学しました。

(当時)医学科2年 小澤 享平

この度は研修先への渡航や滞在において多大なるご支援をいただき、大変ありがとうございました。「未来への飛躍」基金のおかげで留学を決断し、自分の本当にやりたいことをすることができました。今回関わったプロジェクトは始まったばかりで被験者となる患者さんの募集や、実験に必要なキットの検討をしている段階で、新しくできたラボだからこそ経験できることや学べることもあり、大学ではできない経験がたくさんできました。医学研究なしで現在のよう医療は存在していません。2年生という早い段階で医学研究について学ぶことができたのは、サポートいただいた教授や先生方、大学関係者のすべての方々のおかげです。心から感謝しております。



後列右から2人目が小澤さん

## 02 看護学科臨床研修 (国際看護論Ⅱ)

看護学科4年生を対象に、異文化における看護と医療の実際を海外研修において見直し、人間の健康と病が社会的・文化的に構築されたものであることについて理解を深めることを目的とした授業です。チェンマイ大学への海外実習の際の宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

### 今まで持ち合わせていなかった新しい視点で、物事のとらえ方を知れた研修

(当時)看護学科4年生 服部 由貴

タイの医療体制や問題に対するコミュニティーでの活動の様子など、実際に地域に行き見直し、直接お話を聞かせていただくことができました。私にとってこれからの看護師としての人生においてとても貴重な学びと経験になりました。この経験から感じたこと、得た学びを忘れず、今後に活かし、患者やスタッフに対して真摯に向き合い寄り添うことのできる看護師を目指したいと思います。最後に、この研修にかかる費用を一部負担いただきありがとうございます。「未来への飛躍」基金があったことで、研修に参加することへのハードルが下がり、金銭面で悩むことなく研修を終えることができました。大きな発見から小さな気づきまで、とても良い経験となりました。



▲左から2人目が服部さん

2018年度活動報告より

### 世界中で働ける看護師になりたい

(当時)看護学科4年生 丸谷 良美

今回は、助成金による援助をいただき誠にありがとうございます。大学入学前から将来世界中どこでも働くことのできる看護師になりたいと考えていたので、援助として助成金をいただけると伺い、諦めず参加を決意することができました。この研修では、旅行では訪れることのできない病院内や、大学、その他の医療に関する施設の見学ができます。タイの医療の実際について学び、毎日英語に触れ、チェンマイ大学の看護学生の意識の高さを感じ、現在の自身の状況と向き合う良い機会となりました。費用を援助してくれた両親と大学、講義や指導を行っていただいた看護師・医師の方々、受け入れて下さったチェンマイの方々へ感謝すると共に、この貴重な経験を今後の私自身の成長と立派な看護師になるために活かしていきたいです。

▼左から4人目が丸谷さん



## 活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介いたします。

### 03 海外留学 (ADVANCED CLINICAL ENGLISH II)

健康や医療等に関する教材を用いて、reading, writing, listening and speakingを総合的に修得するための訓練を行うもので、医学科3~6年生、看護学科を対象としたニュージーランドへの海外留学です。交通費、宿泊費等の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

#### 学科と学年の枠を超えたチームで、互いに補い、伸ばし、改善し合える研修

▼横たわっているのが永井さん

(当時)看護学科1年生 永井 清香

このメンバーで参加できたことを非常に感謝しています。大学内で活躍できる学生でありたいという気持ちを抱きながら入学したこともあり、今回参加することで、英語を用いて発信できる看護師を目指したいという気持ちが一層大きくなりました。参加するためには、基本的な医学的知識は必要であると思いますが、低学年で知識不足だという理由で参加を諦めることは非常にもったいないです。ぜひ、低学年の方には英語力を磨き、それが自分の強みであるということを主張し、積極的に挑戦してほしいと思います。また、私にとって「未来への飛躍」基金の存在があったからこそ、この貴重な経験に参加する決断を下せました。今後の看護師というキャリアに対する考えに大きな変革をもたらしたと言えます。本当にありがとうございました。



2018年度活動報告より

#### 自分の知識を活かし、実用的な場で確認できる研修

▼手前左が漆谷さん

(当時)医学科3年生 漆谷 哲

実際の環境で生身の人間を相手にした時に動じない精神的な準備と、非日常的な環境でチームとして働いていくことの大切さを学ばせていただきました。医学的な知識が定着しているか自信がない状況で、十分に学ぶことができるか不安でしたが、いざ行ってみると自分の知識を活かせることが多々あり、自信をつけることができました。研修のすべてが英語で行われているため英語力の向上を図ることができ、現地の医療のことも直接的に知ることができます。今回、海外研修に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。他では得られないような経験をさせていただきました。ありがとうございました。



### 04 大学院医学研究科博士課程 入学者に対する奨学金

優秀な大学院博士課程修了者及び学位取得者を広く社会に、より多く輩出することを目的とした奨学金制度です。入学金及び授業料相当額を本基金から貸与しました。

2021年度活動報告より

血栓止血先端医学講座 細田 千裕

本奨学金のご支援のもと、私は血栓止血先端医学講座で研究活動に取り組んでおります。初期臨床研修終了後の進路を考える際、医局に所属せず大学院生として研究中心の生活を送ることに対して、経済的な不安を拭いきれずにおりましたが、本奨学金制度を知り安心して大学院に進学することができました。進学先の血栓止血先端医学講座では、血友病A根治療法の開発を目指して研究活動に没頭する毎日を送っております。現在研究を中心に据えた生活を送れているのも、本奨学金制度により学費の懸念が解消されたことが大きいと感じる日々です。

本奨学金の多大なるご支援には、心より感謝申し上げます。社会に貢献する医学研究者となるべく、今後一層の努力を重ねてまいります。



2021年度活動報告より

公衆衛生学講座 辻本 雄大

私は、現在、本学の公衆衛生学講座に所属させて頂きながら、大学病院に看護師として勤務いたしております。これまでの私の専門領域は集中治療であり、主な研究テーマは、集中治療を受けた患者さんが、ICUを退室してからも身体、心理、社会的な障害を抱えるという「集中治療後症候群(PICS: Post Intensive Care Syndrome)」について、多施設研究を実施いたしました。そこで、たとえ命が助かったとしても健康に療養生活を送ることができるかがQOLの向上に重要であることを学びました。そこで、より対象をマクロに捉え探究できる公衆衛生に興味を持ち進学いたしました。未熟ではありますが、高度な知識やスキルを持った先生方のご支援を頂きながら社会貢献できるよう尽力いたします。本基金によるご支援を頂き、心より感謝申し上げます。



## 社会とのつながりへの支援



### ●健康長寿イベントへの助成

奈良医大の教員と学生がショッピングモールで開催した、地域の方々に奈良医大を身近に感じてもらうための健康イベントへ助成を行いました。近年、関心の高まる感染予防や健康情報の発信、AEDの使用方法の実演などに加え、子どもも楽しめるよう診察・看護体験や救急車見学を実施し、医療に興味を持つきっかけづくりができるようなイベントが行われました。



## クラブ活動への助成

クラブ棟の老朽化対策や環境整備に助成をしております。クラブ棟の改修や弓道場の場盛土の修復といった大規模なことから、クラブ棟のコンセント増設やバッティングゲージの購入、クラブ用洗濯機買い替え、更に設備だけでなく「西日本医科学生総合体育大会(西医体)」への参加費の助成も行ってきました。

クラブ活動は学生生活を有意義にするだけでなく、豊かな人間性や社会性を培うことにおおいに役立ちます。基金では、これからも学生のクラブ活動を応援していきます。

